

2026年6月24日

出展ギャラリー決定。新体制のもと、各プログラムも独自性を生かした展開へ



左：2026年メインビジュアル（デザイン：塩谷啓悟）、右：2025年 ACK会場風景, photo by Moriya Yuki

京都府等で構成する Art Collaboration Kyoto 実行委員会は、2026年11月7日（土）から9日（月）まで国立京都国際会館にて開催する「Art Collaboration Kyoto（ACK）」の出展ギャラリーを発表いたします。

6回目となる2026年のACKでは、18の国・地域（24都市）から総勢63ギャラリーの出展が決定しました。本年は、大型ブースへの出展応募が増加した傾向を受け、よりスケール感のある展示環境を拡充するなど、ブース毎の特色をより強く体感できる空間設計を試みます。日本国内のギャラリーと海外のギャラリーとが1つのブースをシェアして展示する「ギャラリーコラボレーション」には、ヨーロッパ、アジア、そして北米から南米まで、世界各地から名だたるギャラリーが集結します。京都にゆかりのあるアーティストや作品を紹介する「キョウトミーティング」とともに、国際的なアートシーンの最前線と、京都という土地の文脈が交差する、見応えのある空間を創出します。

また、ACKは本年度より7名のディレクターによる共同ディレクション体制「リーダーシップコミッティー」へと移行し、複数の専門領域からの多角的な視点が交差するフェアを目指しています。

主催プログラムにおいても、これまで全体を覆っていた単一のテーマを設けず、各プログラムの特色をより重視した枠組みとなります。会場内の多様なスペースを活用する企画展示は、名称を「パブリックプログラム」から「ACK Intersections」へと変更。ブース外に広がるスペースに飛び地的に作品が点在し、様々な視点が交わる展示の在り方を表す名称としました。今年ゲストキュレーターは、山口情報芸術センター（YCAM）でキュレーターを務めるレオナルド・バルトロメウス氏です。「境界の外へ」というテーマが掲げられ、実験的な作品が展開される予定です。また、「ACK Talks」や「ACK Kids' Programs」では、国内外の幅広い分野から登壇者を迎えるトークセッション、子どもたちのための鑑賞プログラムやワークショップなど、引き続きそれぞれのプログラムの特性を活かし、幅広い世代と関心層が楽しめる趣向を凝らします。

そして、アーティスト支援プログラムへの注力も続きます。ACKはオフィシャルチャンパーニューパートナーのチャンパーニュ ポメリーと共に、2023年以来取り組んできた、京都を拠点に活動する若手アーティストをフランス・ランスへ招待する「Pommery Prize Kyoto」に加え、昨年始動した「Bangkok Collaborate Kyoto Fellowship (BCK Fellowship)」を Bangkok Kunsthalle と共に今年も実施し、ACKに出展するアーティストの中から選出された受賞者にバンコクでのアーティスト・イン・レジデンスの機会を提供します。

ACK会期中は、多彩なアートイベントやナイトイベントが京都各所で開催されます。ACKと合わせて、京都でしか体験することができないアートシーンを紅葉の始まりとともにお楽しみください。

出展ギャラリー *=初出展

ACKでは「ギャラリーコラボレーション」と「キョウトミーティング」の2つのセクションを設けています。

ギャラリーコラボレーション

国内のギャラリーが海外のギャラリーをゲストに迎え、1つのブースをシェアして出展するセクション。国内から25ギャラリーがホストとなり、海外に本拠地のある27ギャラリーをゲストに招き、合計52ギャラリーが世界水準の現代アートを国内外に発信します。

ホストギャラリー（国内25ギャラリー）	ゲストギャラリー（海外27ギャラリー）
ANOMALY（東京）	Roland Ross*（マーゲート）
CON_（東京）	SEASON 4 EPISODE 6*（ロンドン）
HAGIWARA PROJECTS（東京）	Triangolo*（クレモナ）
KANEGAE（京都）	ATTA*（バンコク）
KAYOKOYUKI（東京）	Sophie Tappeiner（ウィーン）
KOKI ARTS（東京）	Unit 17*（バンクーバー）
KOTARO NUKAGA（東京）	ALMINE RECH（パリ）
MISAKO & ROSEN（東京）	Meyer Riegger Wolff*（ソウル）
水戸忠交易（東京）	Annely Juda Fine Art（ロンドン）
ミヅマアートギャラリー（東京）	STPI（シンガポール）
ナンヅカ（東京）	ジェフリー・ダイチ*（ニューヨーク）
Nonaka-Hill（京都）	Modern Art*（ロンドン）、INGLEBY*（エジンバラ）
パーセル（東京）	(sans titre)*（パリ）
Satoko Oe Contemporary（東京）	Margot Samel*（ニューヨーク）
思文閣（京都）	ノイグロームシュナイダー（ベルリン）
Sho+1（東京）	OLNEY GLEASON*（ニューヨーク）
スタンディングパイン（東京）	ベージュ*（ブリュッセル）
タカ・イシイギャラリー（東京）	Carlos/Ishikawa*（ロンドン）
Takuro Someya Contemporary Art（東京）	TKG+（台北）
TARO NASU（東京）	Hauser & Wirth*（チューリッヒ）
東京画廊+BTAP（東京）	Gallery Hyundai*（ソウル）
小山登美夫ギャラリー（東京）	Fortes D'Aloia & Gabriel（サンパウロ）
Yoshiaki Inoue Gallery（大阪）	MAI 36 GALERIE*（チューリッヒ）
18, Murata（東京）	TURNUS（ワルシャワ）、Good Weather（シカゴ）
4649（東京）	Galerie Tenko Presents（ニューヨーク）

キョウトミーティング

京都にゆかりのある、国内外のアーティストや作品を紹介するセクション。今回は国内からは6ギャラリー、海外からは5ギャラリーが参加し、合計11ブースで京都ならではの展示をお楽しみいただけます。

アートコートギャラリー（大阪）、イムラアートギャラリー（京都）、Kiang Malingue（香港）、MANGROVEGALLERY（深圳）、Mendes Wood DM（サンパウロ）、MORI YU GALLERY（京都）、PERROTIN（東京）、Raster（ワルシャワ）、SCAI THE BATHHOUSE（東京）、シュウゴアーツ（東京）、Timothy Hawkinson Gallery*（ロサンゼルス）

ACK 主催プログラム

ACKが主催するプログラムとして、企画展示「Intersections」や、トークセッション、キッズプログラム等を展開します。

ACK Intersections

フェア会場のブース外に広がる多様なスペースを使った企画展示。今年ゲストキュレーター、レオナルド・バルトロメウスが掲げるキュレトリアルテーマは「境界の外へ」。ACKのブースデザインや、国立京都国際会館という建築空間の特性を活かしつつ、実験的な作品を展開します。

各作品は、鑑賞するだけでなく、購入して自身のコレクションに加えることも可能です。

ゲストキュレーター：レオナルド・バルトロメウス



Photo: Tabitaphotoworks

山口情報芸術センター（YCAM）キュレーター。ジャカルタ芸術大学を卒業後、2019年に山口に移住するまでアート・コレクティブ「ルアンルパ」（その後に「Gudskul Ekosistem」の一員）に所属。同コレクティブでの活動を通じ、アート、教育、地域社会が交差する領域に興味を持つ。これまでに、キュレーター集団「Kolektif Kurator Kampung」での活動（2017–2021年）をはじめ、「クリクラボー移動の教室」（2021年）、「The Flavour of Power」（2022年）、「Speculative Library」（2023年）、「飯田街道聞き取りアートプロジェクト」（2024年）、「Dance Floor as Study Room」（2024年）、「PROJECT MRT」（2025年）などYCAMでの数々のプロジェクトや、森美術館での「六本木クロッシング2025：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」などのキュレーションを手がける。バルトロメウスは自身をジェネラリストであると考え、様々な場所で行うワークショップ、レクチャー、展覧会、アートプロジェクトを通して常に新しいことを学ぼうとしている。

キュレトリアルテーマ：「境界の外へ」

目に見えないルールや、上からの統制、そして同調への静かな圧力によって社会全体が方向づけられるとき、人と人とのつながりはどうなっていくのでしょうか。

今日の私たちは、デジタルと実社会の双方において、さまざまな制約に、知らず知らずのうちに包まれて暮らしています。それらは私たちの機微を平坦にし、エコチェンバーへと誘い、世界を少しずつ二極化させていきます。こうして自由がゆるやかに狭められていく状況に向き合いながら、本プログラムでは「境界の外へ」を掲げます。いつのまにか引かれた境界の先を見つめる——その切実な思いとともに、私たちを分け隔て、決められた役回りへと導く暗黙のルールを、アートがどのように越えていけるのかを探ります。

ACK Talks

カンファレンス機能の充実や文化芸術を中心としたコミュニティ形成を目指し、多彩なトークセッションを展開します。

ACK Kids' Programs

会場内で作品鑑賞を楽しむ「みる」と、実際に手を動かしてアーティストとともに作品を作る「つくる」などの参加型ワークショップを行う予定です。

また、生後3ヶ月～7歳までの子ども連れのお客様に託児サービスをご用意します。

※ACK主催プログラムの詳細は9月に発表を予定しております。

ACK 2026 開催概要

会期：一般公開 2026年11月7日（土）-11月9日（月）（内覧会 11月6日（金） ※報道関係者と招待者のみ）

会場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）ほか

出展ギャラリー数：63（国内31、海外32、うち初出展18）

主催：Art Collaboration Kyoto 実行委員会

（京都府、一般社団法人日本現代美術商協会、一般社団法人日本現代美術振興協会、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン、京都商工会議所、公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー）

Art Collaboration Kyoto (ACK) は、「コラボレーション」をコンセプトに、京都で開催する現代美術のアートフェアです。国内と海外、行政と民間、美術とその他の領域等、様々な分野とのコラボレーションを実現し、新たな可能性を開く機会となるでしょう。会場となる国立京都国際会館では「ギャラリーコラボレーション」と「キョウトミーティング」の2つのセクションを設け、出展ギャラリーが作品の展示・販売を行うほか、ACKが主催する企画展示「Intersections」、パートナー企業とコラボレーションした「スペシャルプログラム」を開催します。その他、キッズプログラム、トーク等、これからのアートの担い手を育成する教育プログラムも充実。併せて京都府内では、ACK会期に合わせて多数のアート展示が開催されます。

リーダーシップコミッティー

土井未穂（エクスペリエンスディレクター）

服部陽子（オペレーションディレクター）

峯恵子（エデュケーションプログラムディレクター）

大石正子（パブリックアフェアーズディレクター）

鈴木秀法（ギャラリーリレーションズ&フェアプロダクションディレクター）

高村美和（VIPリレーションズディレクター）

手銭和加子（パートナーシップディレクター）

セレクションコミッティー

井上佳昭（Yoshiaki Inoue Gallery 代表）

ロレイン・キアン（Kiang Malingue 共同代表）

小山登美夫（小山登美夫ギャラリー 代表）

ペドロ・メンデス（Mendes Wood DM 共同代表）

森裕一（MORI YU GALLERY 代表）

ローゼン美沙子（MISAKO & ROSEN 共同代表）

山本裕子（ANOMALY ディレクター）

国内外のコレクターや文化関係者を**ACKグローバルアンバサダー**として迎え、ACKの国際的なネットワークの拡充や認知向上にご協力いただいています。

山下有佳子：チェアパーソン

ジャム・アクザール（Jam Acuzar）

麻生和子

レナ・バウム（Lena Baume）、ナタリー・バウム（Nathalie Baume）

エドモンド・チェン（Edmund Cheng）

イ・ソヨン（Lee Soyong）

ジャック・ヴェルハーゲン（Jacques Verhaegen）

ジョンソン・ヤン（楊宗鎔） & ソフィー・ワン（王怡蘋）

パートナー：



大丸松坂屋百貨店



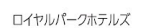
美術手帖

新POST



THE KYOTO

artdrunk



助成：令和8年度 内閣府 地域未来交付金
令和8年度 文化庁 我が国アートのグローバル展開推進事業



※ACKは2022年より保税展示場として許可を得ております。
※最新の情報はWebや各種SNSをご確認ください。

問い合わせ先：ACK実行委員会 事務局 広報担当：有田、市川 E-mail press@a-c-k.jp

